

セルフモニタリング報告書（令和6年度分）

令和 7 年 4 月 30 日

施設名： 夜間・休日急病センター
 指定管理者名： 一般社団法人苫小牧市医師会
 所管課名： 健康こども部 健康支援課

モニタリング項目	指定管理者コメント	自己評価				
1 事業計画の達成度						
事業計画の内容に従い、適切に施設の管理運営が行われたか。	事業計画書に伴い管理運営を行っている。	A	B	C	D	E
施設利用者数の増加、利用率の上昇、利用者利便性の向上などの目標は達成されたか。		-	-	-	-	-
施設の設置目的にあった成果は上がっているか（目標値を設定していないその他の施設）。	受診人数はコロナ禍前の状態に戻っている。	A	B	C	D	E
自主事業は計画どおり行われたか。		-	-	-	-	-
地域、関係機関、ボランティア等との協働・連携に向けた取組が行われているか。	二次医療機関との機能分担を図り安定した救急医療体制を整備している。	A	B	C	D	E
2. 利用者の満足度						
利用者の満足が得られているか。	利用者満足度の向上に向け、都度対応及び協議し改善に取り組んでいる。	A	B	C	D	E

利用者の意見・要望の把握は適切に行われているか。	ご意見箱を設置し、都度対応及び協議し改善に取り組んでいる。	A	B	C	D	E
利用者の意見・要望・苦情への対応は十分行われたか。	建物・設備に関しては今後の課題となるが、患者対応に関しては協議し改善に取り組んでいる。	A	B	C	D	E
3 管理運営の効率性						
経費の低減が図られているか。またその取組は十分か。	診療に影響のないところの節電や薬剤医材の在庫管理を徹底し、経費の抑制を図っている。	A	B	C	D	E
一部業務の再委託に要している経費は、適切な水準か。また、経費が最小となるような取組はされているか。	委託業務に関しては、選定時に見積合わせ等を行い、経費が最小となるように努めている。	A	B	C	D	E
収入増加のための取組はされているか。		A	B	C	D	E
4 適正な管理運営						
職員の能力向上に向けた取組は行われたか（研修等）。	学会・研修会等に積極的に参加しスキルアップに向けた取り組みを行っている。	A	B	C	D	E
安全対策（事故防止等）は十分だったか。	看護部長をトップとし、施設内の安全対策及び事故防止に取り組んでいる。	A	B	C	D	E
人員配置及び職員の管理体制は適正か。	部門責任者を明確にすることによりの確な人員配置に努めている。	適		不適		

<p>施設の平等な利用等について、適切に処理されているか（使用料の減免、還付含む。）。</p>	<p>バリアフリーに配慮した構造としており、杖や車いすなど利用されている方でも安心して来院でき、受付や診察等をスムーズに実施している。</p>	<p>適</p>		<p>不適</p>		
<p>利用者の個人情報等について適正に管理が行われていたか。</p>	<p>「特定個人情報等取扱規定」を定め、管理している。</p>	<p>適</p>		<p>不適</p>		
<p>収支の状況に不適切な点はないか。会計処理は適正か。</p>	<p>税理士に業務委託し、適正処理を行っている。</p>	<p>適</p>		<p>不適</p>		
<p>施設・設備等の法定点検及び保守は、適正に行われているか。</p>	<p>各点検業者が都度点検し、報告を受けている。</p>	<p>適</p>		<p>不適</p>		
<p>書類・備品等の管理は適正に行われているか。</p>	<p>備品庫及び保管庫等にて保管し適正に管理している。</p>	<p>適</p>		<p>不適</p>		
<p>法令・協定書等を遵守し、適正管理が行われているか。</p>	<p>外部コンサルタントを配置し管理を行っている。</p>	<p>適</p>		<p>不適</p>		
<p>5 地域貢献</p>						
<p>雇用・資材調達・再委託等、地域貢献に努めているか。</p>	<p>地元業者等を利用して地域貢献に努めている。</p>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>C</p>	<p>D</p>	<p>E</p>

- A：目標、事業計画を上回る取組がされており、管理運営状況は極めて良好である。
- B：目標、事業計画どおり又はそれ以上の取組がされており、管理運営状況は良好である。
- C：概ね目標、事業計画どおり行われており、管理運営も適正で、特段問題は見られない。
- D：目標、事業計画において一部未達成があるなど計画内容を下回っており、又は管理運営において一部不適正な部分があるなど、改善が必要と認められる点がある。
- E：目標、事業計画の内容を大幅に下回っており、かなりの部分において改善が必要である。

総合評価



【★の数が5～0の6段階評価で評価しています。】

〈 4 適正な管理運営において不適がある場合、その理由と今後の対応について 〉

指定管理者の自己評価（全体を通して）

令和6年度は、前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症をはじめとする感染症対策を着実に継続しつつ、感染症の流行期における受診患者の急増に的確に対応できる体制の整備と、業務の効率化・質の向上を図る一年となった。

特に、感染症流行期のタイミングが従来と異なる傾向を見せる中、患者動向を的確に把握し、柔軟な対応が求められる状況が続いた。加えて、地域医療体制においても診療時間の変化や医療資源の偏在といった課題が顕在化しており、これらの影響を受ける形で土曜日の受診者数が増加傾向にあることが明らかとなった。これを踏まえ、当センターでは、従来の「土曜1診・日祝3診」体制を見直し、「土曜2診・日祝2診」体制へと変更を行った。これにより、待ち時間の緩和と診療の質的向上を図り、受診者の利便性および満足度の向上に寄与したものとする。

また、限られた人的・物的資源の中で持続可能な運営を実現するため、医療材料や薬剤の在庫管理を見直し、適正化を進めた。併せて、消耗品や印刷物等の経費についても再検討を行い、コスト削減と資源の有効活用に努めた。こうした一連の取組は、業務運営全体の効率化と経営の健全化につながるものとして、一定の成果を上げた。

人的資源においても、職員の能力向上と業務の質的強化を目的とした取り組みを推進した。看護職員の外部研修会への参加や、二次救急医療機関への体験学習を通じて、二次救急で実践されている救急対応に触れる機会を設け、得られた知見を自施設の運営改善に反映させる努力を行った。これにより、職員一人ひとりの専門性と対応力の向上が図られ、日常業務にも好影響を与えている。

加えて、災害時における初期対応体制の強化を目的として、災害支援ナースによる講習会を開催し、災害発生時における初期医療救護所の具体的な運用体制の構築に着手した。自然災害の頻発が懸念される中で、平時からの備えを着実に進めることの重要性を再認識した一年でもあった。

今後も、一次救急医療の中核機関としての役割を果たすべく、二次救急医療機関や地域の関係機関との連携を一層強化し、地域住民が安心して医療を受けられる体制の確保に努めていく。また、患者ニーズや社会情勢の変化を的確に捉え、柔軟かつ持続可能な救急医療体制の構築を目指し、引き続き尽力していく所存である。